



「土人形の里」から 絵付け体験のススメ



郷土玩具 土人形

土人形は、その土地の民間信仰、風習、行事などと結びつき、手作りの素朴さが魅力の郷土玩具として、古くから愛されています。

土人形は京都南部で作られた伏見人形が源流とされ、伏見稲荷大社の信仰と結びついて「稲荷みやげ」として売り出されると、人々の交流とともに全国に普及しました。

江戸時代後期から明治時代にかけては、全国150カ所もの土人形の産地がありました。しかし現在では40カ所程度と最盛期に比べ約4分の1になってしまいました。



中野の土人形

中野市は、奈良家が制作する「中野人形」と、西原家が制作する「立ヶ花人形」の2種類の土人形が伝承される、全国的にも類いまれな土人形の里です。

奈良家「中野人形」の主なもの
は京都伏見系、西原家「立ヶ花人形」は愛知三河系の流れをくんでいます。中野の土人形は、生活や風習に深く結びつき、古くから「土びな」と呼び親しまれ、市民に大切にされてきました。

また、伝統的な中野土人形のほかに、独創的で現代的な要素を取り入れた創作土人形を制作される方も増え、土人形がより身近に感じられるようになりました。



土人形の里で絵付け体験

大勢の皆さんに、土人形の魅力を感じてほしい。そんな願いを込めて、日本土人形資料館、信州中野観光センター、まちなか交流の家では、土人形の絵付け体験を行っています。特に、まちなか交流の家は市内で唯一、土人形の型づくりから体験できる施設です。

素焼きの土人形に塗料で彩色すれば、世界でただ一つ「あなただけの土人形」が出来上がります。土人形を手にとれば、優しく素朴な温かさがじんわりと伝わってくるはずです。



絵付けコンテスト開催

土人形の愛らしさと素朴さを感じていただくため、土人形絵付けコンテストを開催しています。この機会に絵付けを体験し、自慢の作品を応募してみませんか。詳しくは、市公式ホームページまたは広報なかの10月号をご覧ください。

- ・ 小学校低学年（以下）の部
 - ・ 「小犬」または「馬」
 - ・ 小学校高学年の部
 - ・ 「招き猫」または「はかまうさぎ」
 - ・ 一般の部（中学生以上）
 - ・ 「踊り福助（奈良家）」または「春駒（西原家）」
- 応募締め切り 平成26年1月31日
（金）午後4時



1 中野人形師奈良久雄さん・由起夫さんによる絵付けの実演と指導もあります（写真は由起夫さん）2 第8回土人形絵付けコンテストの対象となる土人形です 3 職員が向ういて絵付けの指導も行います（写真は中野小学校6年2組の親子）4 まちなか交流の家では、土人形の型作りから体験ができます 5 絵付けは心の赴くままに… 6 人形は顔が命。緊張の瞬間です 7 各施設には絵付け道具が用意してあります。お気軽にお出掛けください



ちょっと聞いてよ

土人形絵付けの魅力



楽翔会*で創作土人形「楽翔焼」を制作している関冷子さん

知人に誘われ、絵付け体験をしたことがきっかけでした。以来、絵付けが楽しくて、やみつきになってしまいました。絵付けをして、出来上がった時の感動が一番の魅力ではないかと思えます。絵付けの良いところは、自宅でもできるし、力もいりません。失敗しても塗り直しができるので、興味のある方は一度体験してみたいかがでしょうか。



創作土人形などを制作している「人形工房 悠」の池田翔吾さん

「線のはみ出し」などは気にせず、絵付けは楽しむことが一番です。僕は面積の広い箇所から塗り始め、次に細かい箇所、最後に顔を塗っていきます。ポイントは水と絵の具のバランス。水が少ないと色がかすれてしまうし、多いとにじんでしまいます。見本にこだわらず、好きな色を使って自由に絵付けしてみてください。



日本土人形資料館で館長を務める山田静江さん

日本土人形資料館は、全国の土人形を展示しているほか、絵付け体験ができます。好きな人形が選べ、職員が絵付けの指導も行うので、初心者の方でも安心です。お一人でも気軽にお出掛けください。年末年始は、鑑賞用として縁起物や干支物がおすすです。来年の干支は「午」。ウマく絵付けできたらコンテストにもご応募を。



※土人形に興味のある（公社）中野広域シルバー人材センター会員の皆さんで設立「楽翔焼」と名付けた創作土人形などを制作している